

キャリア・パスポート」の試作について（省内インナー会議による）

- ① 児童生徒自らが記述し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるもの
 - ・ 日記や週計画ではない（日々の記録や授業単位の記録は「キャリア・パスポート」を記述する上で極めて重要な基礎資料ではある）
- ② 学校生活全体を含む内容とすること
 - ・ 教科のみ、行事のみの自己評価票ではない
 - ・ 特別活動を要としつつ各教科等と学びが往還していることを認識できるように
- ③ 家庭及び地域における学びを含む内容とすること
- ④ 学年、校種を越えて持ち上ることができるもの
 - ・ 異校種、他地域の教師等が理解できるように
- ⑤ 散逸を防ぎ、振り返りたい時期や内容を容易に見ることができるもの
 - ・ 作文や絵、ワークシート、写真などを綴る「思い出アルバム」ではない
 - ・ 国が示す様式は一部の除き例示とし、児童生徒や地域の実態に合わせて設置者や学校が最終的にはそれを定める
 - ・ 活用や指導の手引きについては国が定める
 - ・ 小学校1年から高校3年までを一冊に綴じ込む
 - ・ 小学校1年から4年は学年始めと学年末の2シートを例示する
 - ・ 小学校5年から高校3年は学年始め、学期末、学年末の4もしくは3シートを例示する
 - ・ 基本的にシートはA4判一枚（片面）とする
 - ・ 各学年とも学年末のシートのみはA4判一枚（両面）とする
- ⑥ 教師や家族が対話的に関わるができるもの
- ⑦ 児童生徒、教師、保護者の過重な負担にならないもの
 - ・ 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できる
- ⑧ 学級活動・ホームルーム活動の内容及び実施時間数にふさわしいもの
- ⑨ 兵庫県、秋田県のキャリア・ノートを参考にしつつ国が示す例示としてふさわしいもの